
ドM女のソクソク異世界行脚

Y U

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

DM女のゾクゾク異世界行脚

【Nコード】

N4415Z

【作者名】

YU

【あらすじ】

私、桜木ゆり はある日ゲームの参加者にされてしまいました。異世界で死ぬまで生きろってさ。意味が分からないよね。

ゲームに参加させられたプレイヤーは2000人。1人に1つ能力を与えられ、異世界で生きて行かなければなりません。

私を与えられた能力は「DMの癒し手」

……………アハハ、

もっとマトモそうな能力ちょうだいよ！

第1話 【ルールを説明します】

「ん……………」

あれ？

こじこじっ…

なんにも見えないんだけど…

真っ暗

目は開けてる筈なのに、自分の手も見えない

てゆか手どころか体動かないんだけど

「う…ゲホッゲホ…っ」

あ、声は出るのね

喉痛いな…

あー…まだ風邪治ってないのか

結構寝てたとおもっただけどなあ

薬も飲んだのに熱が下がった気配がない

むしろ上がってるような気が…

そっいえばね、ポカリ飲みたい

ポカリ

アクエリよりポカリのがいいな

喉ガラガラなんだよ

唇もカサカサだし

誰かリップ塗ってくれないかな

あとね、トイレ行きたい

…………アハハハハハハハハハハ！

どうしようこれ！

体ぜんぜん動かないの！

口と目しかうごかねえ！

でも何も見えないし聞こえないし！

はっ！

ひらめいた

私天才だ

助けを呼ぼう

「おかあああさああん！

たああすううけええてええおあつゲホ！！おうええっ！？オロロロ
！！」

……………張り切りすぎたね

私の悪い癖だ

まさか金縛り状態で嘔吐しちゃうなんて

超苦しい

涙が止まらないよう…

ゲロも止まらないよう…

誰か助けてよお…

てゆかパジャマに私のゲ「【ゲームのルールを説明します】

「うおえ!?!」

びびった!

なんか頭の中に声が響いたんだけど

さっき何て言ったの?

今絶賛リバース中で全然言葉が理解出来ないんだけど

仰向けで嘔吐する苦しみなんて初めて味わ【ルールは簡単です。
あなたがたプレイヤーはただ生きてください】

待ってってば

聞こえない？

私のえずく声と吐瀉物がビタビタこぼれてる音がs【あなた方プレイヤーが全員死亡するとゲームは終了となります】

……ふう

すっきりした

胃の中が空っぽだぜえ

でも、口の中とか顔とか胸元がゲロまみr【勝利条件はありません。プレイヤーには死亡するまでこのゲームをプレイしていただきます】

それゲームとしておかしくね？

あ、でもテトリスってそんな感じが

なんかこの頭に響く謎の声、性別も年齢も全く予測できないね

声も謎だけど、これは一体どういう状況な【プレイヤーのみなさん

はこの後、今まであなたがたが暮らしていた世界とは別の世界に飛んでいただきます】

別の世界とか……

やめてよ……

私の黒歴史を思い出させないで……

もう私は異世界のエルフなお姫様の生まれ代わりじゃないの

ちゃんと現実を見れる女子高生になれたんだよ？

ホントだよ？

厨二病は完治したの

だからこれ以上古傷をえぐらないで！

【その世界には魔法やモンスターが存在し、科学はほとんど発達していません】

イヤァァァァァ!

やめてっばあ!

なんでピンポイントに私の黒歴史をえぐれるの!?

鬼かよ!

【あなた方プレイヤーには、その世界で生きて行くために、1つだけ特殊能力が与えられます】

うあああああああゝあゝあゝあゝ!

特殊能力

やめて……

もう許して……

のたうちまわりたい

枕に顔をうずめて足をバタバタしたい

………あ

ヤバイ

黒歴史えぐられるのもヤバイけどもつとヤバイ事になりそう

おしっこ漏れそう

我慢出来ない………！

あっあっあ………っ

でちゃ【では、プレイヤー 桜木 ゆり 様、貴女に与えられる能力をお伝えします】

あ——………

あ——………

漏れた

全部出た

超すつきり！

ふふっ

股間がホツカホ力だよ？

お漏らししちゃったね

もう17歳なのになっ

う…うあああん！

もおやだあ！

【貴女に与えられる能力の名は「DMの癒し手」です】

……ふざけんなああああ！

なんだよドMの癒し手って！

癒し手はまだ分かるよ？

でもさ、必要なの？

ドMって要素必要なの？

もしかして、この一連の流れはSMプレイだったの？

ゲロ吐いて、黒歴史えぐられて、お漏らしして！

もういいよー！

お腹いっぱいだよー！

全部吐いたけどー！

うあ？

いたっ

いたたたたっ

お腹痛い！

しまった！

私風邪ひいたらお腹ゆるくなっちゃうんだっ
た！

うううう…

これだけは…

これだけは我慢しないとっ

最後だからっ

ここが最後の砦だからっ

あああああ！

うぐっ

むりいっ

でちやうううっ

もう異世界でもなんでもいから早く飛ばして！

そして早く体の自由をかえし………

あ………

【それでは、ゲームを始めます】

第2話 【現状理解】

「ぐすっ…ひつく…うえええ…っ」

涙が止まらない…

結局、最後の砦すら守れなかったよお…

「ううう…くっせえ…ひつく…」

自分でだしたありとあらゆる汚物にまみれ、うつ伏せに倒れてる私

心はもう折れました

「ゲホツゲホツ…うう、寒いいい」

なんかここ、凄い森の中っぽいんだけど

しかも寒いし暗い

風邪が悪化しちゃうよ…

てゆか、なんで病人を変なゲームのプレイヤーにしようと思ったの
!?

もはや瀕死だよ…?

「薄暗い森の中…喉が痛い頭が痛い節々が痛い体がダルいし熱が下

がらない、パジャマがかつてないほど汚い、でも寒くて脱げない…
しかも喉乾いたしお腹空いた…」

私の体の中はもう空っぽだよ

ぜええんぶ出ちゃったからね！

ハハッ

………どうしたらいいの？

これ詰んでね？

「…とりあえず、ゲホッ、ここが異世界だと仮定して行動しよ…ゲ
ホッゴホッ」

だって家のベッドで寝てたのに明らかに森の中だもん

夏だったのにここ結構寒いもん

てゆか、熱でもうつろうとしてて考えるの面倒

なので、異世界だと仮定してまずは持ち物チェック

「てゆっても、持ってるモノなんか汚物まみれのパジャマくらいし
かないよね、ゲホッ…一応ポケットの中とか…ゴホッ」

ぐちゅん…

うへえ…ポケットの中おしっこでビタビタだ

「うう…おしっこ冷えて冷たいい…ん？」

なんかポケットに入ってる

「なんだろ？ゴホッ

…メモ帳？

おしっこまみれだけど」

えー…と

メモ帳には【ガイドブック】ってかいてるね

ブックのつもりなのかよ、このメモ帳

「べちよべちよで読みにくいな…ゴホッ…んー…」

メモ帳の内容は要約すると

ゲームのルールだとか能力の使い方だとかステータスの見かたが書かれてる

「暗いし濡れてて読みにくいけど、なんとなく分かった！

ゲホッゴホッゲハッ」

ヤバイ、明らかに風邪が悪化してる

「とりあえずルールは死ぬまで生きろって事が…クソゲーじゃん。

で、ステータスの見かたは【ステータスウィンドウ】ってとなえ…

えあ？」

頭の中にRPGとかでよくある、ステータスウィンドウが現れる

表示されてるのは名前、状態、スキル、持ち物、現在時刻、残存プレイヤー数、って項目だけ

「名前は桜木ゆり、本名のまま、当たり前か…状態は衰弱、空腹、乾き、風邪、不潔になってる…ゴホッ、まあ、そうだねえ…でも不潔って…」

時刻は18:25、スキルは「と」

頭の中のステータスウィンドウは簡単に操作出来た

ぶっちゃけゲームで操作するより簡単だよ

思った通りに動いてくれる

「スキルはDMの癒し手だけ…説明文は「自分や他人の傷、病気、状態異常などを痛みに変換し、その痛みを自らに受け入れ、痛みを耐えられれば癒す事が出来る。痛みは対象の傷や病気の重さによって増減する」

……………ワケわからん」

スキルの「DMの癒し手」の説明文を読んでもよくわかんない

てゆか解りたくない

なんか怖い

「ゴホッゴホッゲハッ……………はーっはーっグラグラする、てゆか

立てない…このスキル使ったら風邪治るかな…もう、怖いとか言っ
てたらまじで死んじゃうかも…」

どんどん暗くなってる森の中でフラフラじゃ間違いなく生き残れない
生き残る自信なんかない

メモ帳に書いてたスキルの使い方は、ただ念じるだけ

「ゲホツ…やって見ますか…」

とりあえず、風邪を癒やして【DMの癒し手】」

ド
ク
ン
！

「あああああああああゝあゝ！！？」

痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い！

体の中を刃物でかき回されてるみたいに痛い

「ウああアアああアアアアああアアア！！」

無理無理無理無理無理無理無理無理無理無理！！

耐えれない！

死んじゃうって痛い痛い痛い！

体が痛みでビクンビクン跳ねる

ちよつとでも痛みを逃がそうとして地面を転げ回るけど、全然効果がない

「あああああああああああ……あ……う……」

唐突に痛みと風邪の辛さが消えた

消えてくれた

「ぜー……っ……はー……あー……死ぬかと思った」

のたうち回ったから風邪は治ったのに擦り傷が出来ちゃったよ。

叫んだから喉の乾きもキツイし。

「風邪が治ったせいで食欲が戻って腹ペコだよ……何か食べ物と水を探さなきゃ」

立ち上がり、改めて周囲を見渡す。

立ち上がった時にズボンの中の汚物が足をつたって流れるけど、そんなもんは気にしない。

だって、どうしようもないじゃん。

周りはもうほぼ真っ暗でよく見えないけど、完全に森の中だね。

木が鬱蒼と生い茂ってる。

暗がりから獣が襲いかかってくるんじゃないかと想像すると、めちやくちや怖い。

「てゆかホントにここが異世界なら、獣どころかモンスターとかも居るんだよね……………」

やべえ！

超怖い！

「うー…怖いけど、川とか探さなきゃだし…あ、【ドMの癒し手】って乾きとか空腹も癒せるのかな？」

ステータスウィンドウを開き、私の状態を確認する。

「状態は空腹、乾き、不潔…風邪は治ってるね。…………もう、いっそのこと全部治して見ようかな。」

だってこんな暗い森の中で川とか食べ物とか見つかるわけないし…

でも、あの痛みをまた味わうのか…

「おおお…超怖いっ、痛いのだなあ。でも喉乾いたし……………よし、やってみよう。」

覚悟を決めて【ドMの癒し手】を使用する。

「私の状態異常を全て癒して！【ドMの癒し手】！」

ドクン！

「~~~~~っ！！」

いつてえ！

痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い！！！！

「ぐっあ…っ」

アホか私は

一個ずつ治せばよかったのに！

でもさっきよりは、痛みがましだな

「ああううう…くうあっ」

てゆか長い！

痛み長いよ！

さつき見たいに刃物でかき回されるような痛みではなく、全身の皮膚をつねられてるような痛み。

叫びだす程じゃない。

ある程度覚悟出来てたしね。

体を丸めてひたすら耐える。

「~~~~~つつ……うあ………」

どれくらいの時間痛みを耐えていたのか分からない。

やっと痛みが消えた。

「ぐすつ………痛み長いよ……【ステータスウィンドウ】」

泣きながらステータスウィンドウで時間を確認

「20:54つて………どんだけ長い時間痛めつけられてたの？」

確か最後に時計見た時はまだ18:30ぐらいだったと思う。

「2時間以上痛みを苦しんでたのね………酷いスキルだな」

でもでも、苦しんだ甲斐があったよ！

喉の乾きも空腹もいやされた！

そして私の体だけじゃなく、汚物まみれだったパジャマまでも清潔になりました！

「ひゃっふー！健康って素晴らしい！清潔って素敵！」

嬉しくてピョンピョン跳ね回る

その姿はまるで森の妖精のようでしょう？

信じられる？

この妖精さんの様な私、さっきまでゲロとウンチとおしっこまみれだったんだよ。

うふふっ

グサッ

「痛ああああー！」

裸足で森の中を跳ね回ったら、そりゃ木の枝が刺さるよね。

「やば、結構深く刺さってる。……………【DMの癒し手】」

ドクン！

「うぎぎゃあー？…あ…が……………~~~~っ」

今度の痛みは一瞬で引いた。

でもやたら強い痛みだったなあ。

「……………そういえばこのスキルって、痛みに耐えれば癒せるんだよね。耐えられなかったらどうなるの？ ショック死するの？」

……………決めた。

このスキルは自分の為だけにしか使いません。

誰かの為にショック死する程自己犠牲精神持っていないよ！

「うん。そうしよう、このスキルは私専用って事で。」

スキルについてはもういいや。

ステータス画面の残存プレイヤーってのは多分まんま、巻き込まれたプレイヤーの生き残ってる人数だよな。

あの謎の声もプレイヤーは何人が居るっぽい感じの口振りだったしね。

「何人巻き込まれてるのかなあ…っ」と

残存プレイヤー数

1462人 / 2000人

「
え？
」

第3話 【3時間で538名死亡しました】

残存プレイヤー数

1462人 / 2000人

「……………え？」

2000人つてのが、このアホみたいなゲームに巻き込まれたプレイヤーの人数であつてるよね？

じゃあ、1462人つてなに？

残存プレイヤー数……………？

538人……………どうなつたの？

「まだここに飛ばされて3時間もたつてないのに……………」

いや、もしかしたらゲームに巻き込まれたタイミングがバラバラで、もう何年も前にゲームに巻き込まれてた人が沢山居ただけかも。

それともゲームの参加者は皆病人だったとか？

そんなにすぐ死んじゃうような世界なわけないよね。

大丈夫大丈夫！

私はもう健康だし、余裕だよ。

ワオー……ン

狼的な動物の鳴き声かな…？

………あんまり楽天的に考えてると危険かも。

とにかく安全な場所に行きたい。

「どうしよう…もう真っ暗でほとんど何も見えないのに。」

夜の森がこんなに怖い場所だなんて知らなかった。

風に揺れてざわめく樹々、たまに聞こえる何かの鳴き声、なにより本当に真っ暗。

星なんて木で覆われたここでは見えない。

「この暗闇のなか裸足で動いて大丈夫なのかな？」

さっき木の枝が刺さった痛みを思い出した。

「痛いのはよくないね。歩き回るのはパス。今日はとりあえず木に登って夜を越そう。」

近くに生えていてなおかつ登りやすそうな木を探す。

「痛っ、刺さらなくても小石踏むだけで痛いよ…さっき何で飛びはねてたの私」

良さげな木を見つけたので恐る恐る近づく。

「…登れるかな？」

近づくと木はゴツゴツしてて結構痛そうだ。

痛い嫌だけど…ここは我慢しないと539人目になっちゃいそう。

…がんばって登りますか。

「昔は木登りのゆりちゃんと呼ばれた私を舐めんなよ！…よっ、はっ、よいしょ…いてっ、うう…んしょ、よっこいしょ、痛たた…」

あちこち擦りむきながらも、なんとか結構な高さまで登れた。

4メートルくらいかな？

足の裏や手のひらはズタズタで血が滲んでる。

「…ふう。ここなら大丈夫っしょ。…あちこち痛いけど。」

とりあえず少しは安全だと思える場所にこれて落ち着けたね。

これからどうしよっかな。

超暇

「あ、そうだ【ステータスウィンドウ】」

ステータスウィンドウの持ち物の欄を開く。

持ち物

・ボウイナイフ×2

・毛布×1

・非常食×10

・水筒×1

・【空欄】

・【空欄】

・【空欄】

・【空欄】

・【空欄】

・【空欄】

残りスペース6

………非常食も水もあったのかよ。

いや痛い思いはしたけど、非常食を温存するのは正解なような気がする。

とりあえず寒いから毛布を選択してみる。

「んあ!？」

びっくりした…

急に毛布が手の上辺りに現れた。

「落とさなくてよかったあ…」

落としかけた毛布にくるまる。

ああ…暖かい。

ステータスウィンドウを確認すると、持ち物の欄から毛布が消えて残りスペースが7になっている。

10種類までは持ち物の欄に入れれるって事かな？

「毛布あったかあい。…他のモノは落としたら嫌だし朝になったら確認しよ。」

時刻は21:02まだまだ先は長いね。

……暇だし木に登った時の怪我でも治そうかな。

これからも【ドMの癒し手】は使う機会が多いだろっし、慣れておかないとね。

「……………怪我を癒して【ドMの癒し手】」

ドクン！

「ひぎいいい！！…って、うあっ？、あぶなっ」

木から落ちる所だった。

擦り傷だったからか、木の枝が刺さった時よりは痛く無かったよう
な気がする。

てゆか、スキル使ったびに悲鳴上げるのなんか恥ずかしいな…。

「でも綺麗に治るから結構便利なスキルだね。なんかこのスキル
好きになってきたかも。」

……………暇だなあ。

お母さん心配してるかなあ……………。

風邪ひいて寝込んでた娘が急に居なくなったら心配するよね。

「ぐすっ…おかあさん…私まだ、ちゃんと生きてるよ……ぐすっ、
がんばってるよ…」

12:43

「やばい…眠い…寝たら落ちるよね、これ…あー…【ステータスウ
インドウ】」

状態は眠気、か…

どうでもいいけどさ、ねむけまなこって漢字にすると【眠気眼】だ
よね。

ふふっ

邪気眼みたい。

くっ私の眠気眼が発動してしまうっ！

みんな逃げて！

…いや本当にどうでもいいよ。

このまま寝ちゃうのは不味い。

また出番だね、【ドMの癒し手】

「ちょっとは手加減してね？……………眠気を癒して【ドMの癒し手】」

ドクン！

「~~~~~つつっ！」

痛たたた！

痛いつてばあ！

「ううう~~~~っ」

空腹とかを癒した時と同じ痛み。

それに長い…………

なに？

癒すものの種類によって痛みとか長さが決まってるの？

「~~~~~っ…………う…………はぁ…………終わったぁ…………」

長かった………… 3時間くらいだった気がする…………

「えっと…………スキル使う前は12：45くらいだったかな？今は…………」
【ステータスウィンドウ】

01：28

………… 体感時間なげえ！

45分ぐらいしかたってないじゃん！

「いや、痛みは短い方がいいよね、うん。それに眠気はぶっ飛んだし…………」

………… 眠気は痛みでなくなっただけじゃないよね？

今ので8時間睡眠したのと同じような効果なんだよね？

また1、2時間したら眠くなるとかじゃないよね？

大丈夫だよね？

「信じるからね？DMの癒し手。」

…………そして暇だ

1人シリトリでもして時間つぶそ。

「りんご……ごま……マントヒヒ……彦星……シマウマ……マリ
ン
バ……バナラ……ラピユタ……バルス……すずめ……メダカ……か
みなり……リコーダー……ダージリンティー……いぬ……ぬいぐる
み……水……頭脳……右脳……

.....

.....

..... クアラルンプール.....る、る、ルイズ・フランソワーズ・ルブ
ラン・ド・ラ・ヴァリエール.....る、る、る、ルーブル美術館、に
おいてある絵画.....が、が、ガイドライン、がないと何も出来ない
マニユアル人間、の私.....し、死亡フラグ.....ぐ、ぐ、G o o g l
e.....る、る？また！？って、なんか明るい！何時！？【ステータ
スウィンドウ】！」

4 : : 2 2

いやったあ！

お母さん！私1人で異世界の夜をやり過ごせたよ！

あー…なんだろう、この達成感。

3時間も1人シリトリなんかしたの産まれて初めて。

まだちょっと薄暗いし、今のうちに空腹とか色々治しておこうかな。

「ステータス異常を癒して【ドMの癒し手】」

ドクン！

.....

「~~~~つ……………んくう…あんつ…あう……………ふう、絶対に今回は長かった。なんか超明るいもん…【ステータスウィンドウ】」

7:52

2時間半もたってるよ…

「まあ、いいや。……………何故か痛みが終わった瞬間凄く気持ち良かった気がする…」

あ、そっだプレイヤーの皆はちゃんと夜を越せたのかな…?

見るの怖いな…

でも見ておこ…

残存プレイヤー数

958人 / 2000人

「.」
「.」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4415z/>

DM女のゾクゾク異世界行脚

2011年12月16日00時48分発行